グリーンレポート

活き活き　安全安心　まちづくり　NO 3

発行　活緑クラブ

南丹市議会議員

八木　眞　高橋芳治
矢野康弘　藤井日出夫
川勝儀昭　松尾武治

平成19年度 予算を可決

どうなる　"市域の活性化・市民の利便性・市域の一体感・定住策"
不安が残る "財政の長期展望・市民の安全・安心”

住民主体の行財政改革、情報公開、住民と行政の協働推進で市民が身近に感じる市政が求められる

南丹市の財政展望

19年予算は、基金（貯金）の取り崩しで編成され、このままでは20年度予算編成が危ぶまれ、基金の枯渇が想定される。

また、本年度の補正予算は借金で、くまねばならない状況であり、南丹市の財政事情は大変厳しいと議会も市当局も口をそろえて言っています。今、一度地方債（借金）の中で、交付税算入として国から後年、分割で支払われる多くの事業があったはずである。その交付税算入がいくらになるか議会として精査する必要があります。

それにしても厳しいことに代わりはないが、そのような中でも合併協で約束された各町の事業は進めなければならない。

公約違反となります。

そこで提案しますが、もう一度、民間会社の経営手法と感覚を市の上層部がもち、官僚と言われる職員の方は手堅く法律、条例、規則を遵守され確実に計画的に進められる。

しかし帳面上は、資金余裕があっても支払いができないのが現実で、時間との勝負であり、タイミングの問題も重要だ。新市町づくりに一本筋の通った信念があれば、儲ける工夫もわいて来ます。

職員は宝、活かすのも市長と言う社長の腕次第、決して職員の希望を失わせてはならないと思います。もう一度理事者一丸となって財政危機を乗りきろうとする覚悟が必要です。商売人なら誰でも経験したことで、金がない金がないと言ったキュウキュウとした発想ではよい考えも、決断力は生まれてこないが、メリハリの利いた予算執行を進める必要があると考えます。トロイカ（3人）方式の悪い面が出ぬようにすべきではないでしょうか。

行政組織の再編　高橋芳治

旧4町が合併して、1年半が過ぎた、南丹市では早やくも、市役所の再編が行われるようであります。合併協議会の中では、一部の地域だけが発展し、周辺の地域が拡大し行政サービスの低下、一部の地域だけが発展し、周辺の地域が取り残されるのではないのかと言うことが問題だった。合併により行政基盤は充実しつつあり、また行政改革の推進は必要であると認識している中で総合支所の役割は重要である。

7割程度の職員数で総合支所としての役割を果たすことが基本である。

このことは合併協議会での公約でもあり、わずか1年半で、支所の職員数が削減されるのでは、市民の理解が得られるのかさか、心配するとこであります。

地域市民のパイプ役として、現在の職員数での総合支所が重要であると考えます。

なで、1年半で組織機構の見直しなければならないのか、私は理解に苦しむところであります。

6月議会に、行政組織関係の条例が提案されるものと思われます。

市債・基金残高の推移

年度		一般会計	特別会計	合計
16	基金	8,365	1,837	10,202
	市債	34,971	31,838	66,809
17	基金	6,362	1,609	7,971
	市債	35,086	31,999	67,085
18	基金	3,500	1,000	4,500
	市債	36,000	31,000	67,000

「魅力ある地域」への変革に向けて

政府資料の抜粋

地域のやる気を支援　　各省連携・政府一体で施策展開

横断的基盤

1．都市再生（まちづくり交付金等）
2．中心市街地活性化（暮らし・にぎわい再生等）
3．構造改革特区
4．地域再生（地域再生基盤強化交付金）

国の情報を市政に

政府が取り組む「地域のやる気」支援策を活かした南丹市のまちづくりを「活力クラブ」では提言していきます。

5つの視点

知恵　担い手　資源　交流　基盤

安倍内閣の最重要課題である地域活性化の推進のため、やる気のある地域が独自の取り組みを推進し、知恵と工夫にあふれた魅力ある地域に生まれかわるための努力を政府全体で応援をしていくための政策です。

具体的な施策（抜粋）

☆頑張る地方支援プログラム
「魅力ある地方」の創出に向けて、地場産品の発掘やブランド化、少子化対策、企業立地促進等の地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方自治体に対するあらたな支援措置。
☆地域の強みを活かした企業立地　促進支援
☆地域雇用の再生支援
☆地域固有の有形無形の資源を活かす
☆中小企業による地域資源を活用した取り組みへの支援
☆地域固有の資源によるバイオマス生産・利活用の推進
☆農産漁村への定住等及び地域間交流の促進
☆魅力ある観光地・観光産業の創出等

予算審議

平成１９年度の南丹市予算は３月議会に可決されたが、限られた予算のなかで市長の手腕を期待する。行財政改革とともに、住民自治が必要となり、行政が行うこと、市民で出来ることを見定め、協働によるまちづくりが求められているが、市政運営には具体策が見えない。

”南丹市議会「活力クラブ」が見た１９年度予算の課題＆視点”

川勝儀昭議員

安心・安全な環境のまち南丹市を

南丹市の船井衛生管理組合への実質負担金は４億８千２百余万円である。基金残高が底を尽いたとの説明であるが、キロ当たり35円というカンポへの、ゴミ焼却委託料は適正妥当なのか検討する必要がある。一般家庭ゴミ処理の委託をしてカンポにおいて、昨年末法定基準を30％上回るダイオキシンが検出され、府の指導により現在焼却炉は停止されている。カンポはダイオキシン排出濃度を自主目標０．０５ナノグラムと設定し、行政立ち合いのもとに試験運転し測定したが０．０６３ナノグラムという測定結果であった。合併前、旧八木町においては公害を出す可能性のある施設設置は近隣の町として、反対の意見書を京都府に提出している。カンポ設置にあたっては、当時川辺地区と園部町とカンポにおいて、公害防止等の三者協定が締結されている。しかし合併した今、隣接する八木町室河原や美里、船枝地区とも協定を結び直し、南丹市も行政として管理、監督、指導を今後徹底すべきである。近隣地元住民の方々のためにも、悪臭やダイオキシン類等の有害物質のでない、確実な体制で運営されない限り、運転を再開するべきではない。

【更生常任委員会より】

八木　眞議員

産業建設常任委員会の所管調査の範囲は広い。農業林業、商工業、地場産業、上下水道、土木建設、都市計画、等々である。

この委員会の重要な事項は歳入においての、地方交付税の削減である。今期予算で見てみると発注事業が対前年比30数パーセント減らされていることだ。おのづから旧四町の継続事業の遅れが懸念される。もちろん新規事業はストップがかかることが多くなる。しかし合併条件として園部の中心市街地再開発における事業、八木町における吉富駅西区画整理事業、八木駅西本郷区画整理事業、併せて駅舎の改築、美山における基幹産業である森林を活かす新たな事業や、観光立国構想など計画通りに進めなければならない。予算の使い方である。これからこの委員会では法律、条例、規則、収支、のバランスもちろん、それだけではなく、加えて資金繰り、決断力、リズム感等ビッグプロジェクトにたいする経営感覚も正していかなければならないし、逐一チェック機能を働かさなければならない。議会として新たな能力が要求されていると考える。

松尾武治議員

財政の長期展望

予算審議の冒頭で、財政の長期見通しについて資料請求をしましたが、合併協議会では財政計画を示し、住民の皆さんに合併の賛意を求めたにも関わらず、わずか一年で長期計画がないとの回答、財政運営は、長期見通しをベースに諸般の状況変更に応じて見直すものにも関わらず、長期見通しは検討中との回答でした。

地域情報網の整備

日吉地域では、18年度事業で、地域情報網の整備事業が完了します。地域情報網の整備事業には多くの可能性があり、市役所からの情報提供に止まらず、住民側からの発信も可能です。多くの可能性の中から市民のニーズに合った活用が求められます。

ゴミの処理

事業者から排出される可燃ゴミの処理は、キロあたり20円の財政負担となる、家庭が排出するゴミ同様分別の徹底で財政負担の軽減を求めます。

藤井日出夫議員

新しい農政と南丹の農業

今回は品目横断的経営安定策に向け、その一段目基本的施策として環境、水、農業を司る施策が実行されようとしています。その事の実現には多くの農家や隣村との協調もし、農家集団だけではなく、その村の環境を守ろうとする団体（自治体、消防団、子供会）一体となって取り組まねばならない。

今まで日吉町においては一体的な取り組みをまとめる「地域マネージャー」を任命して、地域農業の世話役に位置づけてきたが、19年度は「マネジャー制度」を置かないこととなっている。

理事者の答弁では、今後の農業施策の中では有効な手段と考え、前向きに復活を検討するとなった。また時期はいつごろから復活するのか、早急なる実現を要求し。今その必要性について、農業、水、環境の施策を実行しようとするとき是非必要な制度と考える。

２０年度の施策に反映するように建議をし、実行をする。農業委員会事務局長の同意を取り付けた。

有害獣鳥捕獲対策事業について、

予算１７０万円増ではあるが内容的に充実しているのかを正した。捕獲賞金は合計で２，５７５万円となり、鹿、雌・雄の合計８４２頭、猪１３０頭、猿２６頭、アライグマ１１６頭と数字的に出ている。猟友会の方々も高齢化し捕獲後処理等多々問題があると聞く。こういった山を守る文化が無くなりつつあることが重要であり。今後、地方の里山や田園文化の興隆に努力していきたい。。

総務関連予算　矢野康弘議員

☆　幼稚園摩気分園、西本梅分園の廃止活用について。

摩気分園は、昭和33年に設立、建物は老朽化しており、地元からの要望もないので更地にする。西本梅分園は昭和55年に設立、建物は十分使える。水洗化も出来ているので地元と協議する。

☆　宝くじ市町村振興協会交付金について。

電子自治体推進事業費に充当

☆　契約管理システム管理費につて

電子入札の導入は出来るだけ早い時期に導入したい。導入に伴う規制等の改正が必要になる。

☆小　学校改修費

西本梅小の体育館の屋根修理、吉富小のプール改修、知井小学校の体育館の屋根修理、中学校改修費は、園中の図書室のエヤコン設置、美山中のランチシステム・図書室のエヤコン設置

総務常任委員会情報

新しく設置される副市長・会計責任者の職務・権限

自治法１６７条にあるが、市長の命を受け政策及び企画を司り、その補助機関である職員の関連する事務を監督し・・・基本的にはいろんな事務の権限を委任できることになるが、規則で定め直ちに告示行為をすることになる。会計責任者は、事務の内容等は収入役と変わらない。基本的には専任の職員で一般職員の部長級。

編集後記

カンポリサイクルプラザの試験運転の結果が公表されましたが、今後に課題が残る数値となっています。

活緑クラブの所属議員は６名ですが、紙面で、19年度予算審議をもとに、市政を見てみました。

議会では、提案される議案に直視し、住民の皆さんが主体となる南丹市の実現を目指してまいりますので、ご意見をお寄せ下さい。